

平成 29 年度大阪大学入学式 総長告辞

ようこそ大阪大学へ

大阪大学に入学並びに進学されました学部、大学院の学生の皆さん、おめでとうございます。また、これまで長年にわたりご子弟の成長を温かく見守り、勉学を支えてこられましたご両親やご家族の皆さまにも、心からお喜びとお祝いを申し上げます。

本日、11 学部において 3,413 名、大学院 16 研究科の博士前期課程、博士後期課程において 2,939 名の学生の皆さんが、大阪大学の一員となり、晴れて新たな第一歩を踏み出されました。大阪大学総長として心から皆さんの入学・進学を歓迎いたします。

新入生の皆さんは、受験という大きな試練を乗り越えて大阪大学の門をくぐられ、これからの大阪大学での勉学やスポーツ、キャンパス生活や将来設計に、心が弾み希望に満ち溢れていることと思います。

皆さんの前には幾筋もの新しい道が開かれています。皆さんは在学中に多くのことを学び、経験し、豊かな見識を身につけていかれることとなりますが、大阪大学で大学生活を過ごされるスタートにあたって、私から皆さんに、いくつかのことをお話したいと思います。

大阪大学の特徴

大阪大学は、大阪の経済界や財界、大阪府と大阪市、そして府民、市民の皆さまからの資金援助、そして何よりも強い熱意によって、1931 年に帝国大学の一つとして創設されました。すぐとなりの京都にすでに帝国大学があることを承知のうえ、「大阪にも帝国大学を」と、府民、市民が一丸となって国と政府へ働きかけ、実現しました。

その源流は、江戸時代に創設された「懐徳堂」と「適塾」に見出すことができます。「懐徳堂」の建物は現在残っておらず石碑を残すのみですが、「適塾」の建物は現在も大阪府中央区北浜に残っており、国の史跡、重要文化財に指定されています。この二つの学問所は幕府や藩によって設置されたのではなく、市民による市民のための学校として設立されたものです。大阪大学は、この二つの学問所の学風と精神を今も継承し、先進性とたゆまぬ挑戦性を基軸として、学術研究、教育、社会貢献に取り組んでいます。

また、2007年には、大阪外国語大学との統合という大事業を成し遂げましたが、大阪外国語大学の前身である大阪外国語学校もまた、海運関係の実業家のご夫妻からのご寄附により設立された学校です。

このように、いつの時代も民の力で教育や人材育成のため、学校、大学を成長させてきたという大阪は、特筆すべき都市だと言えます。

現在、大阪大学は、11学部16研究科を擁する総合大学です。学部学生数は1万5千人を超えております。この数は、日本の国立大学の中では最大で、女子学生の数も国立大学最大となっています。また、25の言語を教える外国語学部を持つ唯一の国立総合大学です。それとともに、大阪大学は留学生の派遣と受入れにも力を入れています。その数は毎年増え続けており、例えば、外国人留学生は2016年度には、アジアを中心に約2,200名を受け入れておりますが、これは10年前の2倍以上の数字となっています。

このように皆さんが入学、進学された大阪大学は、歴史と伝統に培われ、他に類を見ない設立に至る経緯を持ち、現在の発展に至っています。こういったことを知るとも学びの一つであり、勉学への励みにもなります。また、大阪大学の設立を導いた大阪の府民、市民の方々は、今もなおそのことを誇りとして大阪大学を、そして大阪大学の学生の皆さんを支えてくださっています。皆さんにはぜひこのことを胸に刻み、意を強くしていただきたいと思っています。そのことを具体的に感じるためにも、ぜひ、現存する適塾や豊中キャンパスの一角にある総合学術博物館に足を運んでみてください。

大学で学ぶということ

さて、学生の皆さんは入学、あるいは進学のための試験に合格するために、例えば、1点でも多く点数を取るためにはどうしたらよいか、そのための対策は何かということで大変な努力をして来られたと思います。問題が明確に与えられているなかで、「どう解くか」ということに主体をおいた勉学をされてきました。例えるならば「ジグソーパズル」型の学びと言えるでしょう。ジグソーパズルは、予め設定された正解があって、その正解に向けていかに早く正しく組み合わせるかということを考えます。

一方、これから始まる大学での学びは、「レゴブロック」型です。レゴブロックには、予め設定された正解はありません。正解どころか問題すら明示されていない、その時々の中での状況の中で、何をつくるか、どのようにつくるか、といった根源的なところから思考を重ねていきます。

大阪大学に入学、進学された皆さんにとって、今後、より強く求められてくるのは、そのような学びの方法や姿勢です。どのような授業科目を選択して自身の進路を切り開いていくのか。どのような研究テーマで卒業研究、修士論文、博士論文の研究を行うのか。さらには、将来、どのような人生を歩んで行くのか、というように「何をするか」、「何をしないのか」、さらに、何かを行う場合には「どうしてそれを行うのか」ということが、次々と問われる状況に置かれるようになります。このことは社会に出ると、より顕著になります。

現代社会において、人類は、地球環境の悪化、資源の枯渇、宗教や民族間対立など、地球規模の複雑な課題に直面しています。これらの困難な課題に挑んでいくためには、いったい何をしたらよいのか、なぜそれをするのか、何のためにそれを行うのか、場合によっては敢えて行わないのかが、問われるようになってきており、そういった思考力を持つ人材を社会が強く求めるようになってきています。

そのために大阪大学は、限定された領域に関する専門的な知識ばかりを深めるのではなく、広い視野での俯瞰力をも持ち合わせた人材を育てるべく、今後さらなる教育改革を行ってまいります。

ただし、最も大切なことは、皆さん一人ひとりが本日の入学式を契機に自らの意識を改革して、「レゴブロック型」へのモード切り替えを行っていただくことだと考えます。

何かに打ち込むということ

もう一つ、皆さんにお願いしたいことをお話しします。

私の故郷は岐阜県高山市の国府町です。小・中学生時代の私は、そこで冬は毎日アルペンスキーに明け暮れていました。岐阜県、特に飛騨地方といえば全国有数のスキー場のメッカというイメージがありますが、実は国府町はスキーにあまり適している地域ではなく、リフト付きのスキー場は一つもありませんでした。一度滑り降りたら、自分でスキーを担いで斜面を登るわけです。そのような環境の中で、私は放課後に毎日一人きりで練習に励んでいました。まったくの静寂の中、雪を被った冬の木立の美しさを感じながら練習に通ったことを、今でも鮮明に覚えています。

国府町のスキー大会で常に優勝していた私は、当時の恩師によって、飛騨地区のさまざまな競技会に小学5年生から連れて行かれるようになりました。競技コースはアイスバーン状態の急斜面がほとんどで、小学生には相当怖かったものですが、コース

の脇から温かく見守ってくださる恩師の姿を見て恐怖心が吹っ切れ、急斜面に立ち向かう勇氣と、何があろうともゴールまで到達するのだという氣力が湧きました。そのような環境の中で競技を続けた私は、中学2年生の時には県大会で優勝することができました。

その時の大きな喜び、さらにその優勝のプレッシャーから次のシーズンはまったくのスランプに陥った時の苦闘など、恩師と共有した貴重な体験と、その時々「精進しておれば、いつかは天は微笑む」と励ましていただいたことを今さらのように思い出します。

スキー競技を通じて味わった喜び、辛さ、栄光、挫折等のさまざまな経験が、その後の私の人生のいろいろな局面での道標となっています。

そこで皆さんには、今日から始まる大学生活の中で、ぜひとも何かに打ち込んでいただきたい。最高学府まで来たのですから、勉学や研究にはもちろん全力投球してください。それにプラスアルファとして、クラブ活動でもボランティア活動でも趣味のことも、何でも構いません。何かに一心不乱に打ち込んだときに得る経験は、必ずその後の人生の糧になるものです。

皆さんへの期待

今日のこの日の感激と初心を忘れず、大阪大学の学生としての自覚と誇りを持って、自分を磨く努力をしつつ学生生活を送ってください。また、皆さんの中には、今日から大阪大学との付き合いが始まる方が多くいらっしゃると思いますが、その関係は学部卒業後、大学院修了後もずっと続くこととなります。ご家族の皆さまにおかれましても、大阪大学が身近な存在になったことと存じます。ぜひ、大阪大学へのご支援、ご理解を賜りますよう、お願い申し上げます。

以上で私の告辞とさせていただきます。学生の皆さん、ご出席の皆さま、本日は誠におめでとうございます。

2017年（平成29年）4月3日

大阪大学総長
西尾 章治郎